

リーディングシアター
フェス2022
INマエバシ
READING THEATER FES 2022 IN MAEBASHI

宿命

原作 木原孝一
脚本・演出 生方保光

リーディングシアターフェス2022 in マエバシ(第4弾)
2022年9月25日(日)
13:00~&15:00~開演
前橋文学館3階ホール
主催:前橋文学館 協力:NPO法人波宣亭倶楽部

定員:各回50名
観覧料:500円(当日支払)
※入場は開演の30分前です。

電話予約
お問い合わせ

027-235-8011

出
演
飯塚 清人
見城 由香
堀口 知子

藤田 千都
加藤くに子
大島 政昭



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館



昭和に入り朔太郎の仕事は益々忙しくなった。二人の娘は妻に任せっきりで日々机に向かい、夜になると文壇の友人たちと夜通し飲み明かしていた。

朔太郎が勧めた社交ダンスにしだいにのめり込んでいった妻は、やがて道ならぬ恋に走る。そんな時、前橋の父が病気であるとの知らせがあり、母とはそりが合わない妻を置いて子供を二人連れて前橋に帰ってきた。

こうした状況の中で、朔太郎が何に悩み・恐れ・救いを求めていたのか。

それを知る手掛かりとして、この時期に書かれたであろう散文詩に、朔太郎自身が注釈を書いている。

これを改めて鑑賞していただき、萩原朔太郎生涯最後の詩集「宿命」を深く鑑賞できる作品を書き上げた。



萩原朔太郎役: 飯塚 清人

1979年、高崎市出身。
小劇場芝居を中心に県内で数多の演劇を経験。現在は10代~20代前半の若手の育成に力を入れている。



妻役: 見城 由香

学生時代にミュージカル三昧の青春を送り舞台の魅力に目覚める。いったん普通の大人に戻り、ウン年のブランクを経て2019年より劇団ザ・マルク・シアターに参加。型にはまらない振り幅の広い役者を目指して日々奮闘中。劇団公演のチラシデザインも担当。



酒場の女役: 堀口 知子

1989年生まれ。生まれも育ちも群馬県。高校演劇から舞台のおもしろさを感じ、社会人になり2013年に劇団ザ・マルク・シアター入団。会社員をしながら群馬県でひょっこ表現者ながらも人の心に伝わる表現を勉強中。劇団では主に広報担当。



幼女役: 藤田 千都

2022年劇団ザ・マルク・シアターに入団。吹奏楽経験を活かし、前回のリーディングシアター「ただ港だけが故郷だ」では音響を担当。本格的なお芝居は初めてになります。皆さんに良いものをお見せできるよう、頑張ります。



母役: 加藤くに子

渋川市在住。縁あって片品村の朗読劇団「むなり座」に加入し、その後尾瀬オゾンシアター(国立公園記念劇団)のクリスマスキャロル公演に参加。現在は沼田を拠点とする田舎芝居「わら座」にて活動中。



弁士役: 大島 政昭

1967年生まれ。県立前橋高校卒。オンシアター自由劇場に所属し「上海パンスキング」の舞台に立つ。その後、劇団「いらっしゃい」に参加し、下北沢を中心にコントライブを展開。前橋市民ミュージカルやM'all's「ヘアスプレー」などに出演。

宿命

原作 木原 孝一
脚本・演出 生方 保光

(スタッフ)

舞台監督: 大月 伸昭
大道具: 川田 佳花
音響: 鈴木 乃伍
照明: 大久保 武
撮影・録画: 鈴木ひかり、篠原 和江
衣装: 篠原 和江、前原 明博
広報: 見城 由香、堀口 知子
受付: 篠原 和江、前原 明博
制作: 大月 伸昭、浅原 美佐、鈴木ひかり

予約方法

お申し込みは各回共、公演日の前月最初の日曜日から前橋文学館 027-235-8011まで
※ご予約は先着順となります。※入館に際しては、マスク着用等の感染対策をお願いいたします。※新型コロナウイルス
感染拡大状況によっては、開催内容等に変更が生じる場合があります。ご来館の際は事前にホームページ、もしくは
お電話にてご確認ください。

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館

TEL:027-235-8011 FAX:027-235-8512
<https://www.maebashibungakukan.jp>
〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10



劇団ザ・マルク・シアター HP&SNSにて
最新情報更新中!!



@mrk_vine

@maruku_gunma

@marukutheater

<https://marukutheater.jimdofree.com/>